

仙台集会 障害児保育分科会 分散会別提案要旨

A 分散会（ハイブリッド開催）*仙台会場+ZOOM 仙台・静岡・京都・盛岡

一人ひとりが安心できる居場所づくりに取り組んで

（仙台保問研・乳銀杏保育園 熊谷弥生）

熊谷さんは、4歳児クラスのCちゃんと5歳児クラスのKくんの担当を通して「安心できる居場所づくり」と子どもの願いに応え、クラスの仲間や集団をつなぐ遊びや活動の大切さに気づいたといいます。クラスを超えて支援の必要な子どもにかかわることで、保育者の連携が深まったこと、子どもだけではなく、保育者自身も助け合いながら安心して保育ができる環境を整えることの大切さが提起されています。

どの子にも「あ～たのしかった！」を

（静岡保問研・NPO法人なのはな・児童発達支援事業所とことこ 水越 恵）

児童発達支援事業所における2歳から5歳までの年齢や発達段階も多様な子どもたち9人のクラスです。自然豊かで古民家を利用した環境も生かしつつ、「たのしい!」「行きたい」と子どもたちの心が動くような遊びを通して、一人ひとりが意欲を育み、友だちへの関心をふくらませていきます。鈴木さんは、安心できる大人との信頼関係を土台に、楽しさやおもしろさを分かち合いながら仲間とともに育ち合う療育の大切を提案されています。

主体性はどこに?～Y君のモウイッカイに気づいて～

（京都保問研・洛西保育園 鈴木 琴葉）

水頭症のY君（2歳）は0・1歳児クラスの子どもたちとともに過ごしています。鈴木さんは、身体への働きかけや生活リズムを整えていくことを大切にしながら、おもちゃを「ブンブン」と振るしぐさにY君なりの「主体性」を見出したことをきっかけに、Y君の内面にぐっと近づいていきます。園でのY君の姿を保護者と共有し保護者のねがいの丁寧な受けとめながら、Y君の生活年齢と発達にふさわしい保育への見通しが提案されています。

H君の「やりたい！」から学んだこと

（盛岡保問研・わかば保育園 菅原 萌）

ダウン症のH君が実年齢クラスの4歳児クラスに緩やかに移行していくなかで、菅原さんは、クラスのなかにH君の存在が位置づいていく手応えを感じ、お泊まり会や運動会を通してH君の友だちといっしょにやりたいという願いに気づいていきます。そして、生活発表会の劇ごっこではH君の個性がうんと発揮されます。H君の願いを叶えることを土台とすることで、H君を含んだ仲間の育ち合いにつながる保育のあり方が提案されています。

B 分散会（オンライン開催）*ZOOMのみ 鹿児島・愛媛・滋賀

療育実践における「田んぼ活動」を考える～自然・文化・社会の包括的視点から～

（鹿児島保問研・おぎのめ子ども発達支援センターりんく 岩松まきえ）

児童発達支援センターの年長児クラスの子どもたち5人の「ひみつグループ」による「田んぼ活動」の実践です。子どもたちが1年間をかけて、食べること、自然、遊び、人とのかわり・・・発達に必要なあらゆる生活と文化が織り込まれた活動に取り組んでいく姿が印象的です。岩松さんは、細切れの「療育」が広がるなかで、子どもたちに生活や遊び・文化を手渡していく「ていねいな保育・子育て」としての療育の意味を提案されています。

「だいきらい」から「だいすき」に

(愛媛保問研・新田保育園 高橋めい子)

加配保育士として、年長児クラスのHさんと関わる高橋さんは、「いや!」「だいきらい!」という言葉の裏側にある気持ちを受けとめながら、H君がやりたい当番活動に取り組んでいきます。H君は高橋さんへの信頼や安心に支えられて、生活発表会でも友だちといっしょにやりたいという気持ちを育てていきました。H君が楽しそうな姿が周りの子どもたちとの関わりを広げ、友だちが大好きという気持ちにつながっていく保育の様子が提案されています。

楽しそう!友だちといっしょにぼくもやってみよう

(滋賀保問研・皇子ヶ丘保育園 嶋 利結・松田律子)

るい君は4歳児クラスに在籍しています。対人関係に弱さのあるるい君ですが、嶋さんと松田さんは、るい君の好きな遊びを一緒に楽しむことで身近な存在となり、それを土台に友だちへの関心を育み、少人数のグループ保育も取り入れながら、友だちのなかの自分を感じることのできる居場所づくりを進めていきます。自分の思いが保育者に伝わる嬉しさや安心を支えに、友だちに認められる嬉しさへと気持ちを膨らませていく保育について提案されています。